

広げよう！優良実践の輪！

～ 令和3年度 優良実践校等の取組 ～

取組 7

少子化の進む中で地域への愛着と誇りを持ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きようとする生徒の育成

総社市立昭和中学校

1 はじめに

本校は、過疎化の進む中山間地域に立地する小規模校（生徒数65名）であり、「五つ星学園」（昭和幼、維新幼、昭和小、維新小、昭和中で構成、以下「学園」と称して幼小中一貫教育を実践するとともに、「総社市英語特区」に指定されています。

2 取組の概要

視点1「地域への愛着と誇り」

生徒は地区別生徒会単位で各地区の夏祭りの実行委員会に出席するとともに、事前の用具・物品の準備、当日の会場設営、祭りの運営、片付けなどに従事します。五つ星学園こどもまつりには、総合的な学習の時間の学習成果や豪州姉妹校ホームステイ体験等の発表の場として全校で参加し、自分たちの思いや考えを地域の老若男女に聞いてもらうよう工夫しています。

西日本豪雨被災を契機に、生

徒4人を熊本地震で震度7に見舞われた益城町に震災学習のために派遣。4人は現地で学んだ成果をまとめ、こどもまつりや学園の2小学校で報告することを通して防災意識の高揚に貢献しました。



小学生に益城町での震災学習を報告する生徒

視点2「主体的に英語コミュニケーションを行う態度」

週5時間の英語授業（特区の特例による）では、小中9年間のCAN・Dオリストに基づき、日常的な基本本文暗唱テストや即



豪州姉妹校の生徒と話し込む生徒

興トークなど、生徒がALTや教師たちと英語で対話する機会を確保しています。

インバウンド教育として、豪州姉妹校メルトンセカンダリーカレッジ（MSC）に岡山や総社のよさを英語で紹介する動画を作成・送付しています。MSCと本校の生徒の相互ホームステイも恒例化。岡山や総社を紹介する英語の授業や給食、清掃、座禅体験、家庭生活等をMSC生徒と共に過ごし、外国人とつながる喜びを体感しています。2年生は広島平和記念公園で外国人に声を掛け、どこから来たのか、広島印象はどうかなどについて英語で質問するとともに、自分たちのことを紹介。

3 成果

視点1…「昭和・維新地区はよいところだと思おう」「地域の行事に参加している」生徒は90%を超え、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」生徒は全国平均を大きく上回っています。

視点2…GTECのトータルスコアは全国を100点以上、「将来、積極的に英語を使うような生活をしたがり、職業に就いたりしたいと思う」生徒の割合は全国を20ポイント以上上回るなど、好結果が続いています。

4 今後の課題

今後は、英語学力の二極化に対応した学習指導の在り方を更に改善するとともに、コロナ禍におけるGIGA端末活用等、国際社会情勢に対応した交流の場を工夫したいと考えます。

（令和3年度校長 東 長典）